

オウム対策住民協議会

オウム集団の現況と、ひかりの輪

—その矛盾と欺瞞体質—

講師 浦本太郎氏

烏山地域オウム真理教対策住民協議会 第37回学習会要旨

11月10日(土)烏山地域オウム真理教対策住民協議会が主催した、第37回抗議デモは、約一九〇名が参加した。その後弁護士の本郷太郎氏が、ひかりの輪の裁判の行方、その欺瞞に満ちた体質について講演した。

オウム真理教事件の本質は、サリンという化学兵器を無差別殺人のために2回も使われる国となつてしまったことだ。実行犯は麻原彰晃に帰依しつつ「良い人」が「良いことをするつもりで起こした」事件で、宗教的確信に基づく事件だった。

ひかりの輪のメンバーは脱会者か

破壊的カルトは、特定の考えを絶対的に服従させ、信者の思考を低下させ、目的のために違法行為を繰り返す集団。上からの指示に



烏山地域
オウム真理教対策
住民協議会

い。アレフとひかりの輪で、財産や居住場所、出家者の意思確認などを協議して別れた。この行為は決して脱会とはいわれない。

観察処分を外すことが目的だった

ひかりの輪の現状と欺瞞

文化人・宗教家・評論家を取り込み、ひかりの輪の正当性を喧伝した。さらにオウムの逃亡犯逮捕や、オウム真理教信者の死刑執行など、事あるごとに上祐をマスコミに登場させ、まるでひかりの輪が、オウム真理教とは無関係のような報道でマスコミも追従した。ひかりの輪は設立以来さまざまな活動を行ってきたが、松本サリン事件で冤罪となった河野義行氏を、委員長にした外部監査委員会の人選は、ひかりの輪の理解者を並べただけで、満足な監査もせずに、2015年には河野氏も辞任してしまつた。さらにアレフから信者の脱会をすすめることで、社会の承認を求めようとする行為や批判的論者などにも厳しい対応を続けている。信者の死刑執行についても、教祖も弟子もやむなしと他人事だった。オウム真理教時代の、マイトレーヤ正大使とのホーリーネームを権威の象徴として上祐は現在も使用している。1991年頃、上九一色村のサティアンで、これまで報道

されなかつた上祐が関わつた殺人事件があつた。麻原はじめ幹部信者4名と女性幹部に上祐が同席していた。会計問題の詰問に答えないう女性を、麻原が殺害を命令した。同席していた上祐は、この事件のことをこれまで一切語らなかつた。オウム真理教時代のことを、ひかりの輪設立時に「反省と総括」として発表した

が、そこにはこの事件について書かれていなかった。嘘をつきながら宗教を説いていたことになる。

ひかりの輪の観察処分取り消しの訴訟について

2017年9月25日東京地裁では、

被告の国が敗訴している。現在は東京高裁で審議されている。裁判は、ひかりの輪が観察処分を受けているアレフと同一団体として、観察処分更新決定が出来るかは、解釈上の問題としている。国はひかりの輪とアレフとは「継続的結合体」と主張しているが、ひかりの輪がアレフの支部、分会その他の下部組織に当たるものではない。したがって、ひかりの輪とアレフが一つの団体であることは認められない。一つの団体と認められ



ない以上、本件更新決定のうち、ひかりの輪を対象団体とした部分は違法であると言わざるを得ない。

周辺住民の方々をお願いしたいこと

ふた昔以上前の事件と思われているオウム真理教事件であるが、サリン事件当時を知るひかりの輪の上祐やアレフが、現在も宗教活動を行っている実態を、知らせていくことが重要。入信してみたら、普通の人で、良い人ばかりと思ひ込んでしまうことの恐怖が、知らされていない。若い人がカルトにはまらないように、反対運動だけでなく、人生というものを語り、生きがいとは何かを伝えてほしい。

第37回 抗議デモ・学習会アンケート報告

【実施日】平成30年11月10日(土)

【回収枚数】31枚

【参加回数】初めて(2)、2回目(3)、3回目(3)、4回目(1)、5回目(1)、6回目(1)、7回目(0)、8回目(2)、9回目(0)、10回以上(15)

【抗議デモ・学習会への感想】

- ・オウムの現状を知りたい。「ひかりの輪」とは何か。
- ・自身のオウム、ひかりの輪に対する勉強不足もありますが、難しかったです。ただ分裂しただけではない為、いつか合流する可能性があるというのは怖いと感じました。
- ・とても解りやすかった。上祐が隠していた殺人事件は発覚当時おどろきだった。
- ・今だに、この様な学習会等を開かなければならない現実があることは残念ですが、抗議デモと共に必要と思います。
- ・今年の裁判の執行後の動きに気をつけなければと思った。
- ・上祐が時効となった殺人事件を認めたという話は目が覚める思いです。改めてオウム真理教(アレフ・ひかりの輪・他)を認め許すわけにはいかない。
- ・滝本弁護士が必ず終わりますと言っていたので、是非そうなってほしいです。
- ・滝本さんのひかりの輪、分析してとらえて、解りやすかった。

【協議会活動について】

- ・ありがとうございます。地下鉄サリン事件を知らない子ども達が当たり前の様に毎日暮らしているけれど、親としては安心して暮らせているのは皆さんの活動のおかげだと感謝の気持ちでいっぱいです。
- ・シュプレコールは効果ないと思う。脱会幹部からの話を聞きたい。この方が効果は大きいはずだ。分派の動向についても知っておく必要がある。
- ・安全で安心できる街となるまで粘り強く活動を続けてもらいたいと思っています。
- ・若者への情報提供の難しさを感じた。
- ・もう18年になりましたか。デモ行進の時に最大の敵は『忘却』であると感じます。また若い親子の姿が増えたのも感じました。彼らがオウ

ムを知らなくても、私達は彼らのあの幼児達の為に闘うのだと声を上げていきます。

- ・事件を知らない若い世代にわかりやすい形で知らせる方法をもっと考えてもらいたい。
- ・協議会活動も色々、それなりにがんばっていますが、いつまで続けなければいけないのか、先が少しでも見えれば良いのにと思います。

第37回抗議デモの抗議文

抗議文

オウム真理教・ひかりの輪はなぜ、この烏山に住み続けるのか。上祐はアレフと分裂したあと、ひかりの輪は、麻原から脱却したものだと言い張っている。そんな事は誰も信用しない。上祐がアレフの代表だった時、麻原の写真を隠し、教義を隠し、麻原を隠していた。アレフと分裂後も、同じマンションにオウム信者たちと住み続け、オウム時代からの修行を続けている。それぞれの地元に戻って再出発するのが第一だろう。

上祐は、麻原の刑が執行された直後に、新たな事実を認めている。地下鉄サリン事件の4～5年前、上九一色村の第1サティアンで麻原と新実や中川らが、女性信者を殺害したその現場に、居たという事実である。今年4月に、週刊誌記者に「女性信者殺害」について聞かれた時は誤魔化していたが、殺害の実行犯達が死刑になったあとで、殺害の事実を認めたのである。これはまさに、殺人の共同実行といえるのである。さらには、この事件が時効である事と、当事者達がいらない事を十分承知したうえで発言である。上祐は、これまで、全てを打ち明けて反省し、生まれ変わったかのごとく話していたが、それはやはり嘘だったのである。この事件がもっと早く表に出ていたなら、サリン事件も起きなかつたらう。

われわれ住民協議会は、ひかりの輪と上祐の嘘を徹底的に暴いてゆく。決して騙されない。今後も住民協議会は、ひかりの輪の解散・解体のために、粘り強く活動することを宣言する。

平成30年11月10日

烏山地域オウム真理教対策住民協議会
会長 古馬一行

上北沢区民センター文化祭で募金活動

11月3日(土)・4日(日)に上北沢区民センター文化祭が開催されましたが、住民協議会では4日に募金活動にいきまいました。前日は穏やかな好天に恵まれ、参加者は多かったようですが、4日は一転雨が降ったりやんだりの空模様で、とにかく寒い日でした。募金活動は毎回屋外で行っていましたが、雨模様のため屋内となりました。午前中は少なかった参加者も前日ほどではないが、昼ころより少しずつ増えてきました。「あなたがくと

思ってお金を用意してきたよ」と毎回募金をしてくれる方。席を外した時「私が見てあげよう」と言って、知り合いに声を掛けてくれる人などいました。毎回募金活動にきていますが、上北沢地域の方々の暖かさや励ましには、いつも感謝しています。さらに「オウムはまだいるんだね」「迷惑なことだね」と、たくさんの方々に応援していただき、元気もらっています。ありがとうございました。

住民協議会活動報告

11月21日(水) 実行委員会

11月26日(月) 編集会議 協議会ニュース181号初校正

12月3日(月) 編集会議 協議会ニュース181号再校正

12月4日(火) 事務局会議

12月11日(火) 協議会ニュース181号発行

協議会ホームページアドレス <http://www.kyogikai.jp>

この協議会ニュースは、皆様の募金により発行されています。